

平成 29 年 4 月 5 日

徳島医療福祉専門学校
校長 廣田 茂美 殿

徳島医療福祉専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 蒨 公一

学校関係者評価委員会報告

平成 28 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 蒨 公一 (勝浦町議会議員)
- ② 大西 徳生 (放送大学徳島学習センター所長)
- ③ 柳田 信次 (平成 28 年度保護者会役員)
- ④ 元木知恵子 (平成 28 年度保護者会役員)
- ⑤ 川村 健 (三溪同窓会会長)
- ⑥ 井関 博文 (徳島県理学療法士会理事)
- ⑦ 細川 友和 (徳島県作業療法士会副会長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 28 年 8 月 3 日 (会場 徳島医療福祉専門学校第 2 会議室)
第 2 回委員会 平成 29 年 3 月 12 日 (会場 徳島医療福祉専門学校第 2 会議室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり。

以上

別紙

I 平成28年度重点目標について

- 1 重点目標①:「設立の理念や教育目標を遵守した学校運営及び教育活動の展開を基軸としながらも、現状に照らし乖離あるものについては、必要に応じ補正等を検討し、更なる安定と高みを目指した学校運営及び教育の提供を促進する。」について

設立の理念、教育目標を遵守した学校運営及び教育目標を更に促進することを通じて、学校が更に発展することを期待します。

- 2 重点目標②:「運営方針及び中期計画による明文化された指針に基づき、計画的かつ安定した学校運営を促進する。」について

学校の運営方針、学園の中期計画等の内容や進捗状況について、特に指摘すべき事項はありません。

- 3 重点目標③:「学校評価（自己評価・学校関係者評価等）の拡充と活用を更に促進する。」について

(制度が形骸化せぬよう) 年度毎の検証に基づいて、更なる高みを目指されることを期待します。実施内容については、特に指摘すべき事項はありません。

- 4 重点目標④:「授業改善推進委員会を軸に、教員間相互授業評価（仮称）等の手法を検討し、教授力等の更なる向上を図るとともに、教職員のスキルアップを目的とした研修を強化する。」について

教員相互授業評価の実施要項の内容について、改善を目指した評価項目となっているか、評価方法を事前に周知し、意見集約の上、評価事項の見直しを図りながら進めるよう工夫されたい。

- 5 重点目標⑤:「学生・保護者、学校関係者（ステークホルダーを含む）等に対する教育活動ならびに学校運営に関する情報提供を促進かつ拡充し、更なる可視化を促進する。」について

ホームページについては、不断のリニューアルを前提とした更新システムの構築を望みます。

- 6 重点目標⑥:「入学志願者の減少並びに学力低下傾向や志望動機の虚弱化等にも対応できる入試制度及び学生募集のあり方について多角的な検討を図る。」について

現時点での取組みとその結果について、特に指摘すべき事項はありません。

7 重点目標⑦：「進級率及び卒業率、国家試験合格率の更なる向上と、休・退学率の低減を図る取組みを強化する。」について

進級率及び卒業率、国家試験合格率の更なる向上に関する取組みとその結果について、特に指摘すべき事項はありません。

休・退学率の低減を図る取組みの強化については、学生支援、学生の募集と受入れの評価項目において後述します。

8 重点目標⑧：「関係業界等との連携を更に強化し、業界ニーズ及び社会的ニーズに対応できる教育課程の編成を図るとともに、キャリア教育の拡充を促進する。」について

現時点での取組みとその効果について、特に指摘すべき事項はありません。

学校の取組みを受け、職能団体においても社会的なニーズを踏まえた学生の臨床実習教育に関する卒後教育等のより一層の取組みの必要性を感じます。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像について

教職員の努力が強く感じられる内容で、現状を維持されたい。

2 学校運営について

学校運営について、特に指摘すべき事項はありません。

3 教育活動について

授業評価について

①外部講師の授業評価も専任教員と同様に扱うこと

②全科目を対象として授業評価結果は被評価者全員に返すこと

をシステムの原則として採用されたい。

学生ファーストの視点から、上記内容の理解を求めて、早期に実施する必要があると考えます。

4 学修成果について

国家試験の合格率向上に向けての取組みとその効果は素晴らしく、卒後教育の部分までケアすることは、卒業生の品質保証、信頼性向上に繋がり、安定した就職の礎になっています。この取組みは本校の伝統と強みであり、大変だと思いますが、是非継続して取組まれたい。

一方で、理学・作業療法学科ともに協会活動を活用したり、同窓会組織に協力をお願いするなどして、組織として卒後研修、ケアが維持されていく体制の構築も望まれます（卒後教育に関しては同窓会の方でも検討致します）。

5 学生支援について

学生が多様化する中で、少しでも休退学者留年者数を減少するために、

- ①オープンキャンパスやプレ入学案内などの充実
- ②適性評価など選抜段階における工夫
- ③入学後の早期からの個別面談の充実
- ④スクールカウンセリング体制の充実
- ⑤奨学金制度の充実

などの取組みは、今後ますます重要性を増していくものと思われまます。

教職員の負担に配慮し、専門機関・専門家にも支援をお願いするなどの分担支援も含めた、より効率的・充実した支援体制の構築も期待します。

この他、就職説明会の実施についても検討願いたい。

6 教育環境について

授業及び校務システムの ICT 化の必要性について、検討されたい。

7 学生の募集と受入れについて

適性を欠く学生の指導には限界もあり、留年や休退学、蓋し卒業できても就職後に問題となるものと思われまます。

オープンキャンパスやプレ入学において適性面等を周知し、入学試験において面接（適性評価）をより重視していくことも検討されたい。

8 財務について

監査法人（公認会計士）との連携について、費用と効果の観点から一考されたい。

9 法令等の遵守について

法令等の遵守について、特に指摘すべき事項はありません。

10 社会貢献・地域貢献について

充実しているものと思われます。

評価とは別に、ボランティア等を通じて学生がどのようなことを学んだのか、(学生の負担とならない程度で) 口頭や紙面を以って発表してもらう機会を設けるのも良いかもしれません。